

利用形態からみた公開空地の類型と評価に関する研究(その3)

正会員○ 松村 秀弦\*2  
同 若山 滋 \*1  
同 田中 理嗣\*3  
同 望月 大輔\*3  
同 夏目 欣昇\*3

【序】 前編(その2)に続き、本編では空地の都市的な効用を明らかにすると共に、設計・評価基準を体系化し提示する。

【公開空地のセッティング要素】 設計段階から設定される公共的な利用の促進や環境向上のための装置・仕掛を利用や知覚を基に抽出した。空地の主要な利用形態である歩道型歩行や通り抜けといった通行、モニター、看板、ディスプレイ等によって利用者に与える情報、ベンチを設置することによって利用者を休ませる休息、アートやイベントによって利用者を楽しませる鑑賞娯楽、イベントや遊具等で積極的に空地を利用してもらう参加、また環境では日射や雨を防ぐ気候保護、うるおいや自然を感じさせる植栽や水景等の修景、光の少ない都市空間に提供する明るさ、騒音をかき消す役目もある音がセッティング要素として抽出される。

【公開空地の機能的な分類】 空間構成要素及びセッティング要素から公開空地を機能的に分類すると大きく、積極的に利用を促進させようとする活動的な型、自然の中で休息させる小自然公園的な型、通行を促進させる通行的な型に分類できる。そして都市的な性格類型と重ね合わせると表-1のように細分される。

【都市的な効用】 公開空地の各型の利用と知覚を考察すると、誘引必要-活性型はイベントを中心に空間一体となった利用があり、イベントが知覚される一種の祭場的な雰囲気を持っている。商業地多目的-多機能広場型では通行利用を主として、部分的に休息、鑑賞、会話といった行為が発生する。小自然公園型は休息する行為をもとに少人数のコミュニケーションが発生している。『誘引必要型』のこの型は周囲から隔離し静かな空間であることがその特質となる。『住宅地多目的型』はプレイロット型だけではなく、小自然公園型、通り抜け型においても子供の遊びを中心としたコミュニケーションの場となっている。これらより公開空地の都市的な効用は街路の補助的な機能を持つ[通

表-1 セッティング要素と公開空地の型

都市性格類型	誘引必要型	商業地多目的型	住宅地多目的型	街路補助型
セッティング要素による空地の型	活性型	小自然公園型	多機能広場型	小自然公園型
セッティング要素	通行機能	通行機能	通行機能	通行機能
歩道機能				
通り抜け機能				
情報機能				
滞留機能				
鑑賞・娯楽機能				
参加機能				
環境修景				
明るさ				
気候保護				

行性]、利用者に非日常的な楽しみを享受する[祝祭性]、騒がしい都市の中に静けさと安らぎを享受する[静寂性]、人に出会いふれあい行為を促進させる[コミュニケーション]、明るさや音を含めた都市空間への[演出性]が挙げられる。

【設計・評価基準の体系化】 都市における公開空地は回遊性の高い都心の商業地と回遊性の低い郊外住宅地に分けられ、前者においては人の流域構造の把握が、後者では公園等との関連性が重要である。さらに隣接する建築用途も考慮にいと、都市における公開空地の性格類型は流動空間に属する『商業地多目的型』、流れから独立している『誘引必要型』、住宅地にある『住宅地多目的型』、そして『街路補助型』に分けることができる。利用や知覚とセッティング要素との関係から、公開空地の都市的な効用は、[祝祭性][静寂性][コミュニケーション][通行性][演出性]がある。『誘引必要型』は人を引きつけることが必要で、その手段として日常的に[祝祭性]か[静寂性]を付加させる必要があり、『商業地多目的型』は現状の[通行性]だけではなく[コミュニケーション]の促進、[祝祭性]を付加させ、多義的な使われ方を促進すべきである。また『住宅地多目的型』は子供の遊び

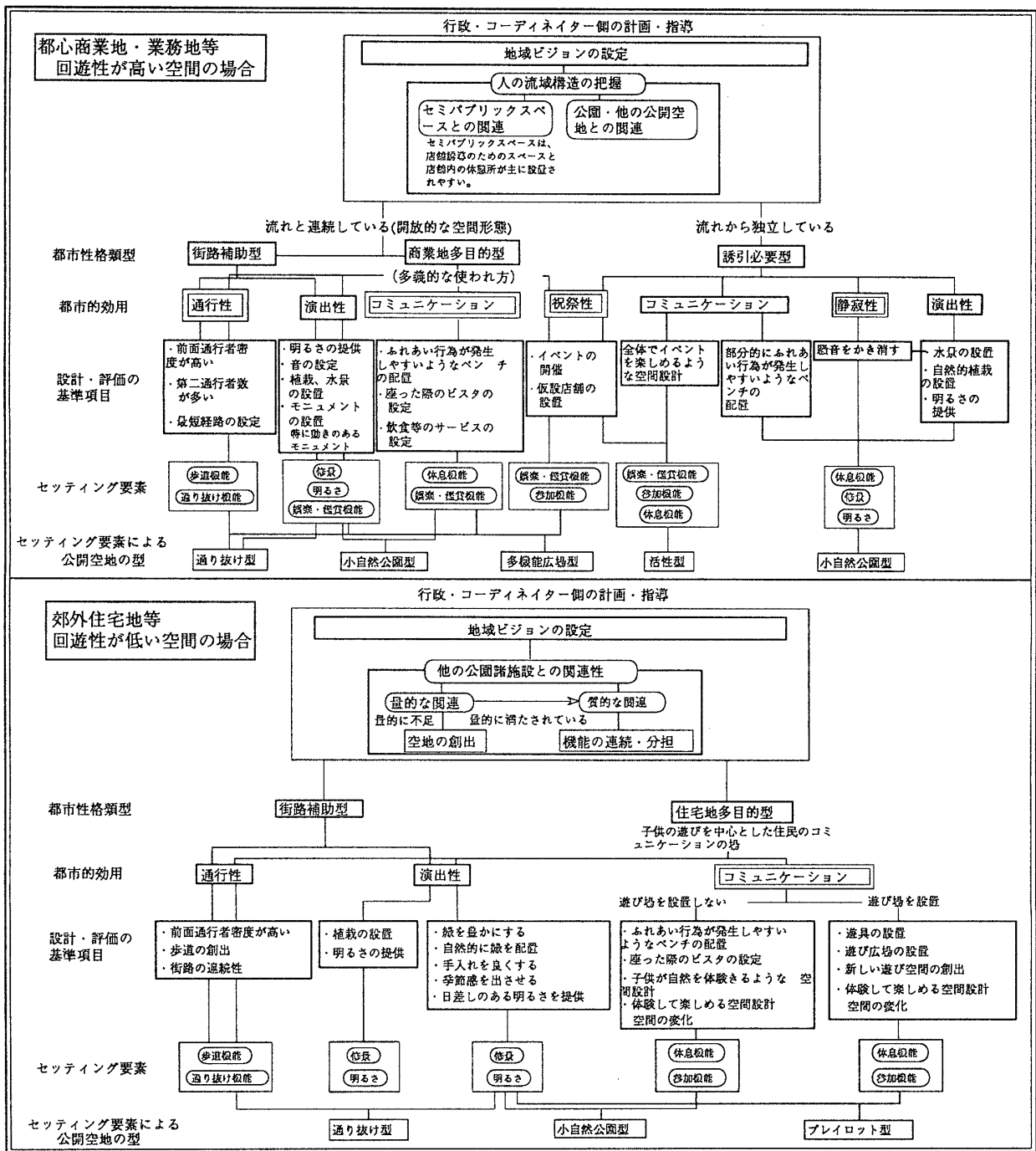


図-1 評価システム

を中心とした [コミュニケーション] の充実を図るべきである。各効用に関する具体的な項目は図-1 に示すとおりである。

【結】 公開空地における利用やその際の知覚は、空間構成要素の影響もさることながら、周囲の人の流れや建築用途、それに対する空地の接続の仕方によって大きく異なる。また都心の商業地と郊外の住宅地では利用状況は異なり、住宅地での利用者数が少ないからと言って効果が少ないとは一概に言えない。公開空地の都市的効用を考える際は、建物の利用者数よりも

空地での任意行為やふれあい行為を尺度として考えることが重要であるが、その人数のみに注目するのではなくコミュニケーションの促進や祝祭性、静寂性の提供、植栽、音、明り、空地の演出性等を考慮した多角的な視野から評価する必要がある、しかもそれが周囲の都市的な状況によって異なってくることを理解することが必要である。

\*1 名古屋工業大学教授・博士

\*2 住宅都市整備公団・修士 \*3 名古屋工業大学大学院